【所轄地区:内牧地区】

内牧地区公民館・内牧南公民館

内牧

◇運営の基本方針

生涯学習の拠点として、住民の学習要求に即した事業を展開し、各種情報を提供する。

また、地域団体・組織と連携し、地域連帯意識の高揚と生活文化の発展を図る。

◇重点施策

1　住民の学習要求に応え、学習機会の充実を図るため生涯の各時期に応じた事業を実施する。

2　地域住民の連携と活性化を図りつつ、自治意識を高めるため地域全体で取り組む事業を実施する。

3　自然に恵まれた特色を生かして、地域住民が喜びを感じる事業を実施する。

◇重点事業

1　教養講座　　2　青少年体験講座

3　内牧地区体育祭　　4　内牧地区文化祭

内牧地区公民館

所在地　〒344-0051　春日部市内牧４３９８番地

内牧市民センター内

ＴＥＬ・ＦＡＸ　０４８－７５２－３２５５

E-mail　uchikou@city.kasukabe.lg.jp

内牧南公民館

所在地　〒344-0051　春日部市内牧１４９８番地

ＴＥＬ・ＦＡＸ　０４８－７６１－００６５

E-mail　uchinankou@city.kasukabe.lg.jp

職　員

館　長（兼務）	新　井　道　彦	主　査（兼務）	豊　田　亜衣子
主　任（兼務）	吉　田　和　正	主　任（兼務）	大　脇　久　男（１１月まで）
主　任（兼務）	赤　坂　亮　祐（社会教育主事）		
フルタイム（兼務）	猪　村　康代美（１２月から）	フルタイム（兼務）	白　川　喜　好
		フルタイム（兼務）	鈴　木　侑　紀
フルタイム（兼務）	井　上　敦都子	フルタイム（兼務）	土　屋　あい子

内牧地区　1

事業名 テーマ	子育てサロン　うちまきプレイルーム	対　象	未就学児と その家族	定員	自由参加 企画により 定員設定
ねらい	気軽に保護者・親子で遊べるスペースとして公民館を開放し、イベント実施と併せて、乳幼児を抱える保護者同士のコミュニケーションの場とする。				
協力機関 及び団体	内牧地区更生保護女性会　他	特　色 位置づけ	子育て支援事業 重点事業	SDGsの目標No	1・3・4・5・10・11・16・17
会　場	内牧南公民館	教　材 資料等	玩具類		
実施までの経過	4月　事業計画書提出 年間スケジュールの配布・配信	PR方法	広報かすかべ 公民館だより SNS		
		受付方法	原則自由参加 一部企画は定員設定あり		

月日(曜)	時　間	内　　容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏　名
				男	女	合計	
回　数	総時間数			計	計		
4月3日(木)	10:00～12:00	「イースターエッグのかざりを作りましょう」	体験	7	26	33	内牧地区更生保護女性会 大塚果樹園
5月1日(木)	10:00～12:00	「こいのぼりを作りましょう」	体験	0	6	6	
6月5日(木)	10:00～12:00	「バルーンアート」	体験	1	3	4	
7月3日(木)	10:00～12:00	「七夕かざりを作りましょう」	体験	3	3	6	
8月7日(木)	10:00～12:00	「夏まつり」ヨーヨー釣り、その他	体験	9	7	16	
9月4日(木)	10:00～12:00	オリジナルマスコットづくり	体験	1	4	5	
10月2日(木)	10:00～12:00	「キャンディレイを作りましょう」	体験	6	13	19	
11月6日(木)	10:00～12:00	「みかん狩り」(予約制20組)	体験	13	22	35	
12月4日(木)	10:00～12:00	「クリスマスサンタを作りましょう」	体験	5	9	14	
1月8日(木)	10:00～12:00	「節分を楽しもう」	体験	2	14	16	
2月5日(木)	10:00～12:00	「おひな祭り作り」	体験	1	1	2	
3月5日(木)	10:00～12:00	茶話会	座談会	2	1	3	
12回	24時間			50	109	159	

企画運営上の工夫	広報は、公民館だよりと安心安全メールを活用し、市内の皆さんに伝達できるよう工夫した。
成　果 参加者の声など	参加者のお母さん同士や参加者と更生保護女性会の方で和やかに楽しそうに会話していた。
課題と展望	参加者が年々減少しているため、更生保護女性会と協力して企画を工夫したい。

事業名 テーマ	幼児家庭教育学級	対象	幼児と保護者	定員	第1回:15組 第2回:20組 第3回:15組
ねらい	子どもたちの健やかな成長を願い、人間形成の上で最も重要な時期である幼児期の発達段階を正しく理解し、望ましい親子関係や家庭環境について同世代の子どもを持つ親同士の交流を図ることでコミュニティの活性化を図る。				
協力機関及び団体	市立ふじ学園　他	特　色	家族で交流	SDGsの目標№	1・3・4・5・10・11・16・17
会　場	内牧地区公民館　他	教材資料等	パンフレット		
実施までの経過	4月～5月　企画内容の調整(講師・助言者等との打ち合わせ) 開催日1～2カ月前　関係団体打ち合わせ 広報作成・募集 役割分担(関係者との間)	PR方法	公民館だより 館内・他公民館にポスター、チラシ SNS		
		受付方法	窓口および電話 市立ふじ学園による代行		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
7月5日(土)	9:00～12:00	じゃがいも堀り	体験	22	22	44	農作業指導:設楽
11月1日(土)	9:00～12:00	さつまいも堀り	体験	13	26	39	市立ふじ学園
3月14日(土)	10:00～12:00	じゃがいも植え	体験	3	1	4	畑提供:田口
3回	8時間			38	49	87	

企画運営上の工夫	障がいのある子どもとその家族、及び、未就学児とその家族のそれぞれの交流に加え、同一世代間での交流を行える様に実施した。家族全員で参加ができる様に、土曜・日曜日に開催した。
成果 参加者の声など	親子で一緒に畑で自ら収穫できることを喜んでいる様子だった。
課題と展望	核家族化が進み、子どもと高齢者が関わる機会が減っているため、募集対象を親子に限らず祖父母も加え、世代を超えたつながりの場にひろげたい。

内牧地区　3

事業名 テーマ	家族ふれあい教室 うちまき蝶の観察会	対象	小学生以上とその家族	定員	約20組
ねらい	夏休みを利用し、内牧地区の豊かな自然を活用した野外活動体験を通して、家族がふれ合える機会を提供する。また、地区内に生息する蝶の補虫を実践し、観察し、学ぶことでさらに興味を持ち、楽しく学び合う家族の交流を図ることをねらいとする。				
協力機関及び団体		特色位置づけ	内牧の自然を生かした講座	SDGsの目標No.	1・4・16・17
会場	内牧南公民館及び内牧公園周辺	教材資料等	レジュメ、レジンクラフト		
実施までの経過	6月6日（木）　打ち合わせ 6月19日（水）　イベント内容決定 8月10日（日）　応募状況とスケジュール	PR方法	近隣の小学校にチラシの配布・ポスター掲示依頼 公民館内にチラシ配布・ポスター掲示、ブログ、SNS配信		
		受付方法	直接または電話で内牧南公民館に申込 先着順、定員になり次第締め切り		

月日（曜） 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	参加者 合計	講師・助言者の職名：氏名
8月23日（土）	9:30～12:00	集合、開校式 講師紹介、諸注意 講義　蝶の説明と捕虫網の実演 昆虫観察、捕虫（内牧公園） 公民館で工作	体験	9	4	13	生涯学習市民推進員 伊藤有三
1回	2時間30分			9	4	13	

企画運営上の工夫	人を集める工夫として、チラシの配布や安心安全メール配信を活用して募集を行った。
成果 参加者の声など	参加者は、自分が見つけた蝶虫の種類を講師に教わり喜んでいた。
課題と展望	気温や天候に左右されるため、開催時期や開催方法を検討したい。

事業名 テーマ	青少年体験教室 キッズフェスタうちまき　2025	対象	幼児 小中学生	定員	なし
ねらい	幼児、小中学生を対象とし、遊び、学び、交流するイベントを通して、日常とは違う時間を、家族共々過ごしていただく。				
協力機関及び団体	共栄大学　国際経営学部　伊藤ゼミ 春日部工業高校　電気科、市内の障がい者支援事業所	特色 位置づけ	家族で交流 産官学連携 重点事業	SDGsの目標No	1・4・16・17
会場	内牧地区公民館	教材 資料等	協力機関からのゲーム・模型及び関連資料（写真等）		
実施までの経過	5月中旬　企画/出展打診/施設仮予約 7月中旬　実現内容の調整・計画 8月1日(金)　公民館報掲載 8月中旬　小・中学校案内 9月初旬　広報（SNS 配信） 9月中旬　出展者最終調整	PR方法	公民館だより8月号・メール配信（小学校）・市SNS・メール		
		受付方法	自由参加型：受付無し		

月日（曜） 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
9月28日（日）	10:00～15:00	展示＋イベント体験 ・鉄道ワールド ・ゲームワールド	見学 体験	55	59	114	共栄大学　伊藤准教授・伊藤ゼミの皆さん 春日部工業高校　富沢教諭他
1回	5時間			55	59	114	

企画運営上の工夫	前年度人気のあった模型の走行・展示・体験、写真展の開催、体験型ゲームを実施出来るように協力依頼した。家族で参加できるよう、日曜日に開催した。
成果 参加者の声など	内牧地区を中心に多くの皆さんに参加していただけた。実施したアンケートでは、多くの参加者から内容に満足し、また参加したいとの回答をいただけた。
課題と展望	協力団体との日程調整は難しいが、多くの方が参加できるよう連携していきたい。対象が、幼児・小中学生と幅広いため、イベント体験の内容を精査したい。

内牧地区　5

事業名 テーマ	青少年体験教室 障がいのある子どもと家族の交流会 キッズ交流ステーション	対象	障がいのある子どもとその家族	定員	各15組程度
ねらい	障がいのある子どもとその家族に向けて、同じ様な特徴・個性を持つ方々とつながる機会を作る。また、親子・家族で孤立しない様に相談・情報交換の場を開設し、交流を支援するとともに、地域社会における共生に向けた活動も行う。				
協力機関及び団体	特別支援学校、内牧小学校、障がい者支援課、ふじ学園、自立支援協議会子ども部会、市内事業者、親の会、第七保育所、共栄大学　他多数	特色 位置づけ	家族で交流 重点事業	SDGsの目標No	1・4・16・17
会場	内牧地区公民館　他	教材 資料等	パンフレット		
実施までの経過	各事業1～2カ月前　関連団体打ち合わせ 広報作成・募集 役割分担（関係者との間）	PR方法	チラシ SNS		
		受付方法	窓口および電話 NPO・ボランティアによる代行		

月日（曜） 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
6月11日（水）	10:00～12:00	ペーパーステンドグラス・交流会	体験	8	14	22	親の会Happy、ふじ学園、保育所、市内事業者、NPOはるいろ
10月17日（金）	10:00～12:00	交流会	体験	27	33	60	
2回	4時間			35	47	82	

企画運営上の工夫	対象者が参加しやすい時間帯に開催した。
成果 参加者の声など	重度の障がいを持つお子さまの家族から、貴重な交流機会となり、感謝しているとの感想を多くいただいた。
課題と展望	交流会などのイベントを行うことで地域社会における共生に向けた活動へとつながっている。

事業名 テーマ	青少年体験教室 小・中学生の職業探索シリーズ 親子で考える仕事と職業体験	対　象	小・中学生と 保護者	定員	企画内容により 個々に設定
ねらい	公民館の利用が少ない壮年/若年層に公民館活動に興味を持って頂くため、子どもの職業探索を保護者と共に考える機会とする。これにより、公民館の認知向上と共に職業観の育成、保護者とのコミュニケーションの促進、地元・地域愛の育成などを図っていく事を狙いとする				
協力機関及び団体	共栄大学・おづつみ園	特　色 位置づけ	保護者と子どもの参加・産官連携事業 重点事業	SDGsの目標No	1・4・16・17
会　場	おづつみ園　内牧茶園 共栄大学	教　材 資料等	各回:職業探索テキスト(公民館作成) 協力機関提供資料・機器など		
実施までの経過	5月6日(火)　お茶摘み体験開催 9月20日(土)　プログラミング教室開催	PR方法	公民館だより掲載 SNS配信/メール配信 近隣小・中学校などにポスター掲示・チラシ配架依頼		
		受付方法	各回:電話か直接申込		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
5月6日(火)	11:00～12:00	お茶摘み	体験	7	13	20	おづつみ園
9月20日(土)	10:00～12:00	プログラミング教室	体験	7	3	10	共栄大学 伊藤准教授・伊藤ゼミの皆さん
2回	3時間			14	16	30	

企画運営上の工夫	親子のコミュニケーションを図るため、GWや土曜日に開催した。 地域に関係の深い、企業・大学の存在を知り地元愛を育成するものとした。 内牧地区で学べる内容とした。
成果 参加者の声など	学校では体験できないこと、家族と参加できることに高い評価を頂いた。 学校では学べないことを知ることができてよかった。
課題と展望	体験内容を内牧地区内で学べる内容にしたため、内牧地区内からの参加が多かった。

内牧地区　7

事業名 テーマ	音楽鑑賞会 やさしい音楽会	対象	一般 子供と保護者	定員	なし
ねらい	市内外の教育・文化団体が、日頃の活動の成果を発表し、地域の方々との交流を図る。音楽環境を醸成することによって、地域の文化芸術の振興を目的とする。				
協力機関及び団体	市内外で活動する教育・音楽団体 NPO法人ららら笑会	特色 位置づけ		SDGsの目標No	4・8・11・17
会場	内牧地区公民館	教材 資料等	ポスター・チラシ プログラム		
実施までの経過	11月中旬　出演団体交渉 2月初旬　公民館だより掲載・準備 3月中旬　開催準備	PR方法	公民館だより ちらし・ポスター SNS・メール		
		受付方法	自由参加		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
3月22日(日)	13:00～16:00	やさしい音楽会	鑑賞	45	65	110	NPO法人ららら笑会
1回	3時間			45	65	110	

企画運営上の工夫	誰でも参加しやすく、楽しめる会をテーマにして企画した。 NPOと協力し出演者選定や幕間を独自性のある企画にした。
成果 参加者の声など	飽きることなく長時間楽しめた。 地域の農産物や事業所のクッキーなどもあり音楽以外にも楽しめる会でした等の感想をいただいた。
課題と展望	新たな団体に協力して頂き、今までとは違うジャンルの演奏者を呼ぶことができた。自主的な地域活動をに結び付けていくためには、繰り返し実施すること、様々な形態の事業を通して交流機会を増やすことも検討が必要である。

事業名 テーマ	内牧ふれあい講座	対象	内牧地区内の概ね60歳以上の方	定員	23名
ねらい	高齢者が健康で生きがいのある楽しい人生を送るための講座を開催して学習機会等を提供する。				
協力機関及び団体	いきいきクラブ内牧地区連合会	特色位置づけ	高齢者同士の交流及び健康・生きがいづくり	SDGsの目標No	3・4・11・17
会場	内牧地区公民館 キッコーマンもの知りしょうゆ館	教材資料等	レジュメ		
実施までの経過	3～5月　講師調整 会長に参加者取りまとめ依頼 6月1日　公民館だより6月号発行 6月中旬　参加申し込み開始	PR方法	公民館だより 各クラブ会長へ会員への周知を依頼		
		受付方法	一般：直接又は電話で公民館へ申込み クラブ会員：クラブ会長へ参加申込み		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
9月3日(水)	12:00～16:00	キッコーマンもの知りしょうゆ館見学	見学	3	19	22	キッコーマンもの知りしょうゆ館
9月24日(水)	10:00～12:00	たのしくフレイル予防	体験	2	11	13	明治安田生命
2回	6時間			5	30	35	

企画運営上の工夫	いきいきクラブ内牧地区連合会の梅田会との共催により実施した。
成果 参加者の声など	参加者からすごく分かりやすい説明で良かった。 具体的な内容を教えてもらい、勉強になった。 健康体操的な要素のもの中心で楽しかった。等との感想をいただいた。
課題と展望	工場見学は、好評だった一方でマイクロバスを使うので参加者が限られるため、見学以外の企画を検討したい。

内牧地区　9

事業名 テーマ	教養講座 うちまきみんなで考えるスマホ活用講座	対象	内牧地区内の概ね60歳以上の方	定員	15名 程度
ねらい	情報化社会が進展する中で、誰でもスマートフォン・PCを活用し行政の様々なサービスが受けられるようにする。				
協力機関及び団体	行政デジタル改革課 くらしの安全課	特色 位置づけ	高齢者デジタルデバイド対策事業 重点事業	SDGsの目標No	4・11・12・16・17
会場	内牧南公民館　大会議室	教材 資料等	テキスト		
実施までの経過	3～5月　打合せ 6月　公民館だより6月号掲載 6月中旬　申込受付開始	PR方法	公民館だより 各クラブ会長へ会員への周知を依頼		
		受付方法	窓口および電話		

月日(曜)	時間	内容	方法	参加者 男	参加者 女	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			計	計		
7月10日(木)	13:30～15:00	基礎編	講義	5	7	12	行政デジタル改革課職員 くらしの安全課職員
1回	1時間30分			5	7	12	

企画運営上の工夫	スマートフォンを活用し行政の様々なサービスが受けられるようにするため、行政デジタル改革課職員が自ら講師になり対応した。行政デジタル改革課や生涯学習推進委員の皆さまと協業して実施し、ノウハウや課題の共有をした。
成果 参加者の声など	詐欺に遭わないための講義は、とても真剣に聴いている様子だった。
課題と展望	基礎的な内容を反復練習する時間や質問時間をもっと長くとりたい。質問によっては踏み込みにくい内容もあるためどこまでを範囲とするかは課題である。

事業名 テーマ	教養講座 やさしい俳句教室	対象	成人一般	定員	15名
ねらい	余暇の時間を利用して、教養を向上させる機会を提供する。				
協力機関及び団体	花野俳句会	特色位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	4・11・12・16・17
会場	内牧市民センター	教材資料等	テキスト		
実施までの経過	9月　講師と打ち合わせ 10月1日　公民館だより10月号発行 10月上旬　参加申込み開始	PR方法	公民館だより、ポスター掲示		
		受付方法	電話または窓口で申込み（先着順）		

月日（曜） 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
11月15日（土）	13:30～16:00	俳句教室	体験	4	2	6	花野俳句会　磯谷
11月22日（土）	13:30～16:00	俳句教室	体験	4	3	7	
2回	5時間			8	5	13	

企画運営上の工夫	俳句サークルの方に当日の補助をお願いした。 俳句サークルが公民館で利用するときの活動内容で実施することでサークルに参加しやすい流れにした。
成果 参加者の声など	すごく分かりやすい説明で良かった。 具体的な内容を教えてもらい、勉強になった等の感想をいただいた。
課題と展望	10年続いている企画のため、新規の参加者を募ることは難しいが、参加した方からは好評で、サークルに加入して俳句を続ける方が多いので、今後も募集等に工夫したい。

内牧地区　11

事業名 テーマ	教養講座 うちまき歴史探訪ツアー	対象	一般	定員	20名
ねらい	地域住民に内牧の史跡を紹介し、郷土愛を深めてもらうとともに、歴史を学ぶことで教養の向上を図る。また、地域住民以外の方にも参加していただき、内牧の魅力をPRする。				
協力機関及び団体		特色位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	4・11・12・16・17
会場	内牧地区内	教材資料等	しおり（配布）、壁新聞（館内掲示）		
実施までの経過	9月上旬　打ち合わせ 10月1日（水）　公民館だより発行 11月下旬　講師依頼 現地踏査	PR方法	公民館だより10月号掲載、安心安全メール配信、他公民館にチラシ配架		
		受付方法	10／1から内牧地区公民館の窓口又は電話で受付		

月日（曜） 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
12月10日（水）	13:30～16:00	内牧地区内の散策	散策	7	9	16	内牧フォークロア 高橋　昌子
1回	2時間30分			7	9	16	

企画運営上の工夫	事前に講師と打ち合わせや現地踏査を行い、参加者の安全や健康面を第一に考えたルートを設定した。参加者が事業終了後も学びを継続できる資料として残せる「しおり」を作成し、参加者に配布した。講師の説明が聞き取りやすいように拡声器を用意した。
成果 参加者の声など	リピーターと新規の方がバランスよく参加している。
課題と展望	屋外の開催のため開催時期や場所を工夫し、今後も安全に楽しめるよう開催したい。

事業名 テーマ	趣味の講座 親子でチャレンジ防災訓練	対象	親子	定員	10組
ねらい	余暇の時間の有効活用及び学習機会の提供を図る。				
協力機関及び団体		特色位置づけ		SDGsの目標No	4・11・17
会場	内牧南公民館	教材資料等	段ボールベッド、燻製作りキット		
実施までの経過	2月1日　公民館だより2月号掲載 2月中旬　参加申し込み開始	PR方法	チラシ・公民館だより		
		受付方法	電話または直接申し込み		

月日(曜)	時間	内容	方法	参加者 男	参加者 女	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			計	計		
3月7日(土)	10:00～12:00	燻製クッキング＆シェルター作り	体験	6	5	11	公民館職員
1回	2時間			6	5	11	

企画運営上の工夫	親子で防災やキャンプに役に立つことを学ぶ企画とした。 危機管理防災課と連携をして防災の内容を盛り込んだ。
成果 参加者の声など	体験活動を通して家庭でも活用できことをテーマとしたので参加者の満足度が高かった。 自分ではなかなか作れないものと思っていたが簡単にできて驚きだった、避難所についてや家での備蓄など防災意識が高くなった等の感想をいただいた。
課題と展望	幅広い年代の方が新しいことに挑戦できる企画を検討したい。

内牧地区　13

事業名 テーマ	令和7年度春日部市民体育祭 第70回内牧地区大会	対象	地区住民	定員	なし
ねらい	地域住民の健康増進・体力向上、住民相互の交流を図る。				
協力機関及び団体	内牧地区自治会連合会、内牧地区体育振興会、春日部市コミュニティ推進協議会	特色 位置づけ	重点事業	SDGsの目標No	11・17
会場	内牧小学校　校庭	教材 資料等	プログラム 競技台本		
実施までの経過	6月14日(土)　代表者会議 プログラム編成会議 9月20日(土)　係別役員会 10月11日(土)　前日準備	PR方法	公民館だよりにプログラムを掲載し全戸配布		
		受付方法	地区対抗種目の出場選手については地区毎に取りまとめ、申込書を内牧地区公民館へ提出 自由参加種目は当日招集		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	合計	講師・助言者の職名 氏名
10月12日(日)	8:30～14:00	開会式 自由参加競技 お楽しみ大抽選会 地区対抗競技 閉会式	競技	500	500	1000	大会役員 競技役員
1回	5時間30分			500	500	1000	

企画運営上の工夫	多世代交流や参加者増のため2種目の参加対象年齢を広げ、新たに2種目追加した。 市政施行20周年を記念してお楽しみ大抽選会を実施した。
成果 参加者の声など	数年ぶりに実施したお楽しみ競争は、用具に使用する菓子類が不足するほど好評だった。
課題と展望	競技役員の確保、市民・若年層の参加促進が課題のため、自治会・体育振興会と連携し、魅力ある企画運営を目指す。

事業名 テーマ	内牧地区文化祭	対　象	公民館利用団体・地域住民・一般	定員	なし
ねらい	地区内で文化的活動をしているサークル・個人の紹介と発表の場を設け、地域還元を図ると共に、多くの方に芸術や地域文化の素晴らしさを味わってもらう。				
協力機関及び団体	主催:内牧地区自治会連合会 協力:内牧小学校(児童作品展示)他	特　色	重点事業	SDGsの目標№	4・8・11・17
会　場	内牧地区公民館	教材資料等	進行台本、プログラム等		
実施までの経過	10月　参加申込開始 11月初旬　調整会議 12月初旬　各団体リハーサル 12月10日　展示開始 12月20日　前日準備	PR方法	公民館だより10月号掲載 ポスター掲示及び配架 安心安全メール・ツイッター配信		
		受付方法	参加団体は参加申込書を記入し、申し込む。 当日の来場は自由		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
12月12日(金)～21日(日) 12月21日(日)	9:00～17:00 10:00～16:00 16:00～16:30	作品展示 舞台発表 作品展示 後片付け	展示 実演 展示	100	144	244	各参加団体 ・芸能の部(団体) ・実演の部(1団体) ・展示の部(3団体) ・児童福祉施設
2回	10日6時間30分			100	144	244	

企画運営上の工夫	他の公民館と時期をずらし、参加者が参加しやすいようにした。 小学校と連携し作品やクラブの出演をしてもらうことで出演者の幅を広げた。
成果 参加者の声など	小学校のマーチングクラブに参加してもらったことで観客の客層の幅が広かった。 展示の期間が長かったためじっくり見ることができた。 展示も絵画に限らず、サボテンやサークル活動のまとめなどがあり、例年よりも充実した。
課題と展望	12月の開催は年末と時期が重なり、参加が難しい団体があったので、次年度は2月頃に開催することを検討している。

内牧地区　15

事業名 テーマ	公民館利用者のつどい 人権問題研修会 自衛消防訓練	対象	公民館利用団体代表者及びサークル会員	定員	なし
ねらい	公民館利用者相互の交流を図り、公民館活動の活性化を図るとともに、公民館利用の基本事項の確認を行い利用の適正化を促す。併せて、人権意識の啓発及び防災意識の向上を図る。				
協力機関及び団体	公民館利用団体	特色位置づけ		SDGsの目標No	1・3・4・5・10・11・13・16・17
会場	内牧南公民館　大会議室	教材資料等	つどいの資料、人権教育DVD		
実施までの経過	12月下旬　消防本部あて訓練通知 人権研修DVD予約 12月13日(土)　提出書類配布開始 1月下旬　当日資料印刷準備 1月30日(金)　前日準備 1月31日(土)　開催	PR方法	公民館利用団体代表者あて開催通知配布(過去1年間で3回以上の利用があった団体を対象とした)		
		受付方法	当日会場入口にて受付		

月日(曜)	時間	内容	方法	参加者 男	参加者 女	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			計	計		
1月31日(土)	13:30～15:00	①人権問題研修会(人権DVD鑑賞) ②公民館の利用についての説明・意見交換 ③自衛消防訓練	鑑賞・会議・訓練	4	16	20	公民館職員
1回	1時間30分			4	16	20	

企画運営上の工夫	内牧地区公民館、内牧南公民館利用者合同開催とした。 人権研修会を兼ねた事業とし、人権に関するDVD鑑賞を行った。 利用団体の自己紹介を行い、団体相互のコミュニケーションを図った。 利用者参加による自衛消防訓練を行い、緊急時の避難経路及び消火器位置を確認した。
成果 参加者の声など	内牧地区公民館、内牧南公民館の合同開催としたことにより、各館利用団体の活動内容を共有できた。 人権問題研修会について、障がい者の様子がDVDによる説明でよくわかりました等の感想をいただき、人権意識の啓発になったことが伺えた。
課題と展望	3つのテーマをあわせて同時開催することは「安全で安心な施設利用」という共通軸があり、学びがつながって理解しやすいため、今後もこの開催スタイルを継続したい。

事業名 テーマ	第49回内牧地区婦人バレーボール・ソフトバレーボール大会	対象	地区在住 18歳以上の女性	定員	なし
ねらい	スポーツを通し地区内女性の交流を図り、健康増進に寄与する				
協力機関及び団体	内牧地区体育振興会、共栄大学バレーボールサークル	特色位置づけ		SDGsの目標No	11・17
会場	共栄大学　体育館 練習会場として、内牧地区公民館体育室及び内牧小体育館	教材資料等			
実施までの経過	5月17日(土)　体育振興会役員会 5月31日(土)　代表者会議 6月　8日(日)　内牧小及び内牧地区公民館にて練習 ～ 6月21日(土)　前日準備	PR方法	公民館だより4月号		
		受付方法	代表者会議にて名簿提出により参加チームを受け付ける		

月日(曜) 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名氏名
6月22日(日)	8:00～17:30	ソフトバレーボール試合	競技	35	85	120	協力:共栄大学 バレーボールサークル
1回	9時間30分			35	85	120	

企画運営上の工夫	共栄大学バレーボールサークルに審判等の運営を協力していただいた。
成果 参加者の声など	4人制のソフトバレーボールに11チームが参加した。決勝戦は、フルセットの接戦が繰り広げられた。
課題と展望	前年に続き、9人制バレーボールの出場チームはなく、ソフトバレーボールのみの開催となったため、今後の検討が考えられる。

内牧地区　17

事業名 テーマ	第42回 内牧地区少年少女球技大会	対象	内牧地区の 小学生	定員	200名
ねらい	地域に育つ子どもたちの交流と健康増進を図る				
協力機関 及び団体	内牧地区自治会連合会、内牧ソフトボール連盟、内牧地区体育振興会	特色	地域一体となり青少年の交流、健康増進を図る事業	SDGsの 目標№.	11・17
会場	内牧小学校　体育館	教材 資料等			
実施までの経過	5月31日(土)　準備会 6月1日(日)　公民館だより発行 6月中旬　案内、各種依頼通知発送 関係団体へ協力依頼 地元市議等へ案内状送付 7月　5日(土)　参加申込み締切り 7月中旬　用具準備、消耗品購入 7月19日(土)　役員会兼代表者会議 8月　2日(土)　前日準備	PR方法	公民館だより6月号 各自治会回覧		
		受付方法	自治会各地区長に取りまとめを依頼し、取りまとめた申込書は、7月5日(土)までに内牧地区公民館へ提出(FAX可)		

月日(曜)	時間	内容	方法	参加者 男	参加者 女	合計	講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			計	計		
8月3日(日)	8:00～9:30	ドッジボール競技	競技	34	66	100	内牧ソフトボール連盟 競技役員
1回	1時間30分			34	66	100	

企画運営上の工夫	各自治会、内牧ソフトボール連盟、内牧地区体育振興会の方々のご協力のもと、内牧地域のイベントとして実施した。暑さ対策のため初めて体育館で開催し、スペースの都合上、種目はドッジボールとした。待ち時間で子どもたちが飽きないよう低学年、高学年の試合を交互に行い、全員が競技を楽しめる時間が長くなるよう高学年は1チーム8名とした。安全面を考慮しソフトバレー用ボールを使用した。
成果 参加者の声など	空調完備の会場で開催したことは喜ばれた。 地区混合チームでの参加もあり、子どもたちの交流の場となった。
課題と展望	前年までと同様に8:00開会としたが、種目が減り短時間で終了したため開始時刻を検討する必要がある。

事業名 テーマ	公民館だより「うちまき」発行	対象	内牧地区内世帯	定員	発行部数 約4,500部
ねらい	公民館事業のPRや事業報告、地区内社会教育団体の活動PR、地域情報などを地域住民に提供する。				
協力機関及び団体	内牧地区自治会連合会	特色 位置づけ		SDGsの目標No	3・4・11・17
会場		教材 資料等			
実施までの経過	発行月の前月中旬に原稿作成・印刷 広報かすかべと隔月同日配布 （偶数月1日発行）	PR方法			
		受付方法			

月日（曜） 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男 計	参加者 女 計	合計	講師・助言者の職名 氏名
偶数月発行 6回		公民館主催事業等の情報提供					

企画運営上の工夫	に工夫した。 字だけでなく、
成果 参加者の声など	で実施した催しが取材できた場合はその様 ていただけている方が多い。
課題と展望	2か月に1回の発行であるため、特に新規事業の掲載時期は、十分検討する必要がある。

内牧地区　19【防災・防犯の拠点に関する事業（地区センター事業）】

事業名 テーマ	内牧一区自主防災訓練	対象	地区内住民	定員	なし
ねらい	年に1度の防災訓練を行い、地区防災会活動の支援をする。 訓練を行うことにより安全な生活を送ることができる。 また、訓練を通して災害時の対応を学ぶ機会とする。				
協力機関及び団体	内牧一区自主防災会、危機管理防災課、春日部市消防本部、内牧地区赤十字奉仕団	特色位置づけ		SDGsの目標No	1・11・13
会場	内牧南公民館	教材資料等	避難所物資、水消火器、AED、ゆらりん号等		
実施までの経過	4月下旬　開催内容の企画立案 5月9日（木）　内牧一区防災会、危機管理防災課及び公民館職員打合せ	PR方法	一区自治会内の回覧板等で周知		
		受付方法	当日、直接来場		

月日（曜） 回数	時間 総時間数	内容	方法	参加者 男計	参加者 女計	参加者 合計	講師・助言者の職名 氏名
6月7日（土）	10:00～12:00	①避難訓練 ②消火訓練 ③AED訓練 ④地震体験（ゆらりん号） ⑤講演会		20	20	40	春日部市消防本部職員 危機管理防災課職員
1回	2時間			20	20	40	

企画運営上の工夫	地区自主防災組織及び危機管理防災課との打合せに同席し、情報共有しながら事業を進めた。能登半島地震被災地で実際に支援業務に当たった職員に現地での経験を踏まえた講演を依頼した。た。
成果 参加者の声など	参加者からは、避難者も避難所運営に協力する必要があることを知ったことや簡易ベッドや間仕切りの作成やAEDの操作など体験できて良かったなどの声があった。
課題と展望	大きな災害に備えるため、内牧地区内の防災訓練のあり方について検討してまいりたい。